

事項	新しい野菜「ヤーコン」の栽培の要点		
ねらい	<p>ヤーコンは、繊維質、フラクトオリゴ糖などの成分を含み、独特の食味、菌触りなどから健康食品、新しい食材として最近注目されている。</p> <p>平成13年からヤーコンの試作を行い栽培法について検討したところ、成果が得られたので参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 種株の貯蔵</p> <p>(1) 茎葉とイモ・細根を取り除いた部分が種株である。</p> <p>(2) 種株は、おがくず等の中に入れ、凍結しない場所に貯蔵する。</p> <p>2 育苗</p> <p>(1) 4月上旬（種株の芽が動き出す頃）に種株をとり出す。直径1～2cm程度の大きさに株分けし、直径12cm程度のポットに植える。</p> <p>(2) 鉢土は、窒素成分300mg/l程度のもを使用する。</p> <p>(3) 霜に弱いためハウスなど保温できる場所で管理する。</p> <p>(4) 定植時の苗は、草丈15～20cm、4～5葉程度のものがよい。</p> <p>3 施肥</p> <p>(1) 施肥量は、窒素成分で1.5kg/aとする。</p> <p>(2) マルチ栽培では、CDU化成とLPコート100日タイプを1：1の割合で配合する。</p> <p>4 定植・管理</p> <p>(1) 晩霜の危険がなくなる5月中旬以降とし、遅くとも6月中旬に終える。</p> <p>(2) 栽植様式は、うね幅100～120cm、株間45～50cm、栽植株数は、185～200株/aとする。</p> <p>(3) 土壌の乾燥防止、除草の省力化のため黒ポリマルチ栽培が有効である。</p> <p>(4) 無農薬で栽培できる。</p> <p>5 収穫</p> <p>(1) 10月中旬頃に行い、強い霜が降りる前に終える。</p> <p>(2) 可食部の収量は、550kg/a程度が見込まれる。</p> <p>6 利用法・その他</p> <p>(1) イモは、ジュース、サラダ、炒めもの等に利用する。</p> <p>(2) 乾燥した茎葉はお茶として利用できる。</p> <p>(3) 水分が失われないようにポリ袋等で包装し、5℃程度の低温で貯蔵した場合の貯蔵期間は4か月位である。</p>		
期待される効果	新しい品目として導入が期待される。		
利用上の注意事項			
担当	青森県畑作園芸試験場 栽培部	対象地域	県下全域
発表文献等	平成13～14年 青森県畑作園芸試験場試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



写真1 ヤーコンの生育時の状態



写真2 種株と可食部（イモ）



写真3 種株



写真4 株分けした芽株

表1 ヤーコンの生育・収量 (平成13年 青森畑園試)

区分	収穫時の草丈 (cm)	収量 (kg/a)		
		大きさ60g以上	30~60g	合計
2001年	217.8	518.5	52.5	571.0

(注) 耕種概要 定植日 : 5月18日
 栽植様式 : うね幅120cm、株間45cm、普通栽培
 施肥体系 : 追肥体系

表2 ヤーコンの収量 (kg/a) (平成14年 青森畑園試)

区名	総収量	内訳			
		301g以上	300~101g	100~61g	60g以下
①CDU+LP100	605.7	237.4	328.3	36.7	3.3
②CDU+新野菜エース	419.1	106.5	221.9	72.0	18.7
③CDU 1.5kg/a	423.5	104.7	243.8	68.8	6.2
④CDU 0.75kg/a	302.0	24.4	168.2	70.9	38.5

(注) 耕種概要 定植日 : 6月19日
 栽植様式 : うね幅100cm、株間50cm、マルチ栽培
 施肥体系 : 全量基肥、窒素成分で①②③は1.5kg/a、④は0.75kg/a